

高機能自閉症、アスペルガー症候群などの特徴に関して

<高機能自閉症、アスペルガー症候群とは？>

文部科学省の調査研究協力者会議によって平成 14 年 10 月に公開された「今後の特別支援教育の在り方について(中間まとめ)」の添付資料では、「高機能自閉症とは、3 歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。」と定義され、また、「アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものである。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障害(PDD)に分類されるものである。」と述べられています。

最近になって、こうした高機能自閉症やアスペルガー症候群のことが世界的に知られるようになるとともに、自閉症の概念が広がり、この広義の概念は「自閉症スペクトラム」とも呼ばれています。こうした子どもでは、言語発達や認知発達の問題が目立たず、一見、しつけの出来ていない子、わがままな子、奇妙な子と思われやすいのですが、その行動の特徴は、脳の発達が独特なコースをたどる障害に起因している可能性が強いことが、これまでの研究から明らかにされています。

<診断の決め手となる特徴>

診断や判断は、子どもの行動の特徴からなされ、「①他人との社会的関係の形成の困難さ」については、具体的には、目と目で見つめ合うことや身振りなどの非言語的な行動が困難であったり、友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けないこと、周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うなどといった特徴が認められます。

「②言語やコミュニケーションの問題」については、高機能自閉症の子どもでは、幼児期に言葉の発達の遅れが認められ、おうむ返しのように反復的な言葉を使うのが特徴の一つです。また、アスペルガー症候群の子どもでは、語彙は豊富で、良く喋る場合もありますが、一方的で回りくどい話し方をしたり、独特な言葉を使ったり、含みのある言葉の本当の意味が分からず、字義通りに受けとめてしまったり、会話の仕方が形式的で、抑揚なく話したりするといった特徴があります。

「③興味や関心が狭く特定のものに強くこだわること」については、具体的には、自分なりの独特な日課や手順が決まっており、その変更を極端に嫌がったり、手や指をばたばたさせるなどの反復的な常同行動が見られる場合もあります。特定のものを集めたがることも特徴の一つです。特定の分野(例えば、鉄道や暦など)の詳細な知識を持っていたり、丸暗記が得意といった特徴もあります。これらのことは、想像力や創造性の問題とも密接に関連しており、ごっこ遊びやふり遊びは一般的には苦手ですが、アスペルガー症候群の子どもでは、しばしば空想の世界に遊ぶことがあり、現実との切り替えが難しい場合が見られることもあります。

<特徴的な行動の原因について>

これらの行動の基盤には、「対人的な情報への自動的な絞り込みが機能しにくい」という中枢神経系の働きに問題があることも推定されています。そのため、人の表情や言葉ではなく、他の事物に関心が向いてしまい、不注意と思われる行動が目立つ場合もあります。また、恐怖感や不安感が強い場合も多く、予定外の出来事や予測できない変化に対して、強い苦痛を感じたり、パニックになることもあります。視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚などの感覚の過敏さもしばしば認められ、偏食や奇妙な行動の原因となっている場合も少なくありません。さらに、アスペルガー症候群の子どもでは、手先の不器用さや動作のぎこちなさが目立つ場合も多いようです。このような感覚面や運動面の問題も、中枢神経系の機能の偏りに起因する可能性が強いと考えられていますが、発症の原因や症状形成の機序は、まだ明確にはなっていません。

<特徴を生かすために>

高機能自閉症やアスペルガー症候群の長所（強み）としては、記憶力の良さ、狭いが強い興味が持続するといった特徴があり、そうした特徴を生かして、科学や技術、芸術、翻訳などの分野での優れた知識や技能を習得する可能性もあります。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>

--